

『入試必携 英作文 Write to the Point』 改訂に際して

竹岡 広信

◇謝辞

『入試必携 英作文 Write to the Point』は、これを使用した学生が、高校を卒業しても役立てて欲しいという願いを込めて「必携」という名前をつけて、世に送り出しました。あれから10年以上の歳月が流れました。この本をご支持頂きました全国の先生方のおかげをもちまして、この度、改訂する運びとなりました。先生方を対象とした予備校の授業「教員セミナー」でも、この本に関わる質問をなさる先生が増えました。非常に嬉しいことなのですが、同時に、執筆者としての責任の重さを感じております。今回の改訂を機に、不十分なところを徹底的に見直し、さらに充実したものにしようと努力しました。

◇入試問題の変化

改訂にあたり、問題選定は最新の入試傾向の変化に留意しました。まず始めに入試の変化について触れておきたいと思います。

1. 新形式の問題の増加

2016年の入試問題をざっと見れば、「和文英訳」が10年前に比べて目に見えて減っているのが分かります。そして、次々と新傾向問題が出されています。今年の東京大学は、「最初の2段落の英文が提示してある。次の段落の内容を予測して書け」というものでした。「緩やかな方向性を示し、英作文させる問題」は、東大らしい問題です。

英文要約問題はここ数年で定着してきた感があります。従来から出題してきた茨城大学、東京外国語大学(リスニングの一部の問題として)、早稲田大学(文化構想学部・文学部)に、今年は熊本大学が参入してきました。

2. 会話文完成の空所補充問題の増加

空所に入る会話文を選択肢から選ぶのではなく、自由に書かせるタイプの問題が増えました。今年は弘前大学、宮城教育大学、千葉大学、宇都宮大

学、滋賀大学、愛知県立大学、京都大学などで出題されました。この手の問題は答えが無数に出てくるため、採点する側の力量が問われることとなります。

空所に適切な英文をいれよ。

Reina: Yoshiko! How are you? I haven't seen you since last week. _____.

Yoshiko: Oh, hi, Reina. I was in Tokyo because there was a seminar for job hunters, and I thought it would be a good idea to go. [宇都宮大学]

標準的な答えは What have you been up to? ですが、Where were you?, Where have you been?, Did you go somewhere?, What have you been doing recently?, What did you do?, I was worried that you were seriously ill. など、答えはいく通りもあります。

3. 写真・イラスト説明問題の増加

一橋大学は、昨年は3つの選択問題の1つだけが写真・イラスト説明問題だったのですが、今年は3つの選択肢すべてが写真・イラスト説明問題になりました。似た問題は金沢大学でも出題されました。

東京大学は今年も写真を見せて説明させる問題でした。1枚の写真を見てストーリーを作るにはかなりの想像力が必要です。

神戸大学は、歩いたルートを人に説明する問題を通して、日常的な英語の表現能力を問いました。神戸大学後期は、広島大学と同様、グラフの説明問題でした。甲南大学はここ数年4コマ漫画の説明問題という優れた問題を提供しています。

4. 自由英作文の傾向

『必携英作文』に提示したような「頻出のテーマ」を出す大学も相変わらず多く存在します。たとえば、「サマータイムの是非(琉球大学)」「自転車通勤の反

対論(北海道大学)」「2年前に戻れたら何をするか(順天堂大学)」「国内全面禁煙の是非(早稲田大学)」「大学卒業後やりたいこと(愛知県立大学)」「作ってみたいロボット(慶應義塾大学医学部)」「地域社会で変えたいこと(静岡大学)」「海外旅行や留学の是非(京都工芸繊維大学)」「地球の将来(岡山大学)」。その一方で、「和食について(広島大学)」「病院内のファーストフード店の是非(旭川医科大学)」「救急車の有料化の是非(秋田大学)」「オンライン講座の是非(新潟大学)」など時代を反映した新しいテーマも散見されます。

さらに、あらかじめテーマに関する英文を読ませた上で、書かせるというユニークな出題形式をとっている大学もあります。「同性婚の是非(慶應義塾大学経済学部)」や「安楽死を認める法の是非(国際教養大学)」などです。この形式では、そのエッセイを書く上で、必要となる語彙が提示されるため、受験生には親切な出題と言えます。

5. 和文英訳問題の減少

今年の入試で和文英訳問題を出题した国公立大学を抜粋すると、札幌医科大学、東北大学、宮城教育大学、福島大学、山梨大学、群馬大学、茨城大学、富山大学、新潟大学、名古屋大学、滋賀大学、京都大学、大阪大学、大阪教育大学、愛媛大学、鳥取大学、岡山大学、九州大学などです。私立大学では青山学院大学、日本女子大学、成城大学、中央大学、東京慈恵会医科大学、同志社大学、大阪薬科大学などです。10年前に比べれば激減と言えます。

昨年まで和文英訳問題を出题していた、金沢大学、熊本大学は出題しませんでした。また、京都大学では、従来2題の和文英訳問題でしたが、今年は1題になり、もう1題は語義説明問題になりました。京都大学もいよいよ重い腰を上げた(上げつつある?)ようです。

◇よい「和文英訳問題」とは?

「和文英訳問題」が少なくなったから、必要ないとするのは早計です。たとえば、「自由英作文」をする場合でも、頭に日本語を思い浮かべてから、それを英語にする作業をするのが普通です。よって、「和文英訳」=「悪」と決めつけるのは行き過ぎです。

ただし、「和文にできるだけ忠実に英訳せよ」となると話は別です。たとえば、今年の札幌医科大学

の問題に「(自閉症の子は)外界との接触を断ち切る」というのがありますが、これは they do not talk with others でも十分伝わります。これを『「外界」『接触』という単語が入っていないからダメだ』という逐語的な答えだけを求めるような姿勢の「和文英訳」は時代錯誤となるでしょう。「和文の一語一語」に影響されるのではなく、「言わんとすることを自分のもつ確実な語句を用いて説明する」ことを要求する問題こそ「良問」と言えるのではないのでしょうか。

おそらく京都大学が、今年「積ん読」を説明せよというタイプの問題に変更したのも、「京都大学は逐語的な答えを求めているわけではなく、英語で伝える力のある人を求めているのです」ということを明示するためであると思われます。

緊張しすぎたり、弱気になったり、集中できなかったりする心理的側面が実力を発揮することを妨げます。[名古屋大]

(新版：p.14 2主語の決定(2) EX. B(3))

上記の英文を、たとえば If you cannot relax, it is impossible to do your best. と簡潔に書いても、筆者の言いたいことはだいたい伝わります。和文にある「心理的側面」などにこだわって、意味不明な英語を逐語的に訳した答案よりも、こうした答えのほうが高く評価されなければならないはずです。「先生、この表現使えますか?」という「当たれば儲けものの英作文」から脱皮して、「確認する必要もないぐらい確実に知っている自信のある表現を用いて伝える英作文」に変化させていく必要があります。これからの「和文英訳問題」は、受験生の幅広い解答を「通じるか通じないか」で判断できるだけの力量を有した採点者が求められることになるでしょう。

世界には文字を持たない言語がたくさんあるらしい。毎日文字に囲まれて暮らしている私たちからすれば、さぞ不便なことだろうと思ってしまいがちだ。[京都大]

(新版：p.50 11 仮定・条件の基本 EX. B(4))

この問題が出题された年に京都大学に合格した生徒(京都大学の模擬試験で英語で全国トップ)は、「毎日文字に囲まれて」の部分で、本番の解答で we read

and write every day としたと言っていました。surround という「えたいの知れない単語」を使わなかったのは彼女の実力の証だと言えると思います。

日本社会は、自分の属するコミュニティないし集団の「ソト」の人との交流が少ないという点において先進諸国の中で際立っている。[神戸大]
(新版：p.70 16 重要表現(1) EX. B(3))

「～という点において先進諸国の中で際立っている」が問題となります。「際立つ」は、文字通りには stand out や be prominent ですが、そのような英作文では使い慣れていないものを使わないでも、「～という点において先進諸国とかなり異なっている」とすれば容易に書けます。

◇「進歩」とは「自己否定」

私は今まで本を執筆するときには、常にできるだけ注意を払ってきました。ただ、その瞬間では「最善」と考えていたことも、時間を経て見ると「最善ではないこと」ということがあります。これは、ある意味で自分が進歩した証明なのかもしれませんが、そのため、時には自らの著作を否定し、前進していく勇気が必要となります。進歩とは「過去との決別」と言ってもよいと思います。過去に選んだ問題や解説はそれなりの理由があり精選したのですが、時を経て冷静な目で見てみると、差し替えないなければならないこともあるわけです。

以下に旧版の問題集に存在した「決別した項目」「決別した問題」を挙げて、その理由を述べたいと思います。

◇決別した項目

S V so as to (V) (旧版：3 目的の表現)

昔は「目的の表現」と言えば、頻度を無視して so as to (V), for the purpose of (V)ing, with a view to (V)ingなどをグルーピングして教えるのが一般的でした。よって、旧版では「in order to (V)と so as to (V)は頻度も意味も異なるのだ」ということを伝えることで、そのような風潮に釘をさしたいと思いこの2つの表現を扱いました。しかし、「ほとんど使わないような表現を載せておくの

は生徒のためによくはない」という判断から本書から so as to (V)を消すことにしました。

S be to (V) (旧版：6 時制(2))

be to (V)も、読解において認識はできなければならない重要表現ですが、英作文でよく使うということはないので消しました。これも当初は「be to (V)には意味が5つもある」とする参考書に対して、「be to (V)は『～することになる』という基本的意味を覚えれば十分だ」と言いたかったのですが、やはり、使わないものを掲載するのはやめました。

Nothing is 比較級 than ～ (旧版：14 比較の応用)

過去10年の入試問題を探しても、「この形を使わなければ書けない」という問題が皆無でした。当初からイギリス人とアメリカ人のコンサルタントからも「大げさな言い方だよ」という意見は頂戴していました。たとえば「朝早く散歩することほど楽しいことはない」という日本語は問題ないのですが、これを Nothing is more pleasant than walking in the morning. とすると、コンサルタントの方から「人生にはもっと色々楽しいことがあるはずだよ」というコメントが寄せられました。

とはいえ、「比較するものを揃える訓練」には有用と考え、exerciseの一部は「比較の基本」に残すことにしました。

ほかにも、1主語の決定(1)にあった〈数字+out of+数字+～+V〉を「数字の表現」の分数表現に統合しました。「3人に1人」は「3分の1」と同じなので、分数の表現に併記しています。また、17重要表現(2)で扱った considering ～は、17章を「itを用いるもの」に統一したかったので、扱いを取りやめました。

◇決別した問題

問題を差し替えるに当たっては、生徒の正解率や、和文内容そのものを精査しました。

仕事は人生最大の遊びであり、仕事を楽しめる人は幸福である。

(旧版：2 主語の決定(2) EX. B(2))

生徒はほぼ間違いなく「遊び」を play にしてしまいます。「英語では Work is play. とは言わないのだよ」と言うのに疲れてしまいました。多くの先生方もそうではないでしょうか。ワナを用意しておいて「ほら、かかっただろ」というのは、本来の英語教育ではないと感じ、削除することにしました。

店員は、まるで僕が故意にピンを落としたと言わんばかりに、にらみつけた。

(旧版：12 仮定・条件の応用 EX. B(1))

まずは as if to say あるいは as if he wanted to say と書ける生徒が皆無。さらに、「店員」はどこの店員なのか？どのような状況でにらんだのか？など、文脈がはっきりしないということで割愛しました。

我々は表現の自由を当然のものと思ってはならず、それを守るために絶えず戦わなくてはならない。

(旧版：3 目的の表現 EX. B(3))

「絶えず戦う」というところが、まず、日常頻繁に使う表現ではなく、また「具体的に何をやるのか？」ということが曖昧であり、省略することになりました。

そのほか、「フェイスブック」や「喫茶店」などの内容的に古い感じのするものも差し替えました。

◇新たに追加した項目

「(ある特定なもの)が～にある」... is ~

(新版：p.8 1 主語の決定(1))

「中学校で習っているから大丈夫」という時代ではなくなりました。themselves を theirselves とする生徒、my own country を own country とする生徒、挙げればきりがありません。there is/are ~ も、もう一度再教育をすることにしました。

「S' V' の場合に備えて S V」 S V in case S' V'

(新版：p.16 3 目的の表現)

生徒が昭和の参考書を使っているせいか、in case を「～するといけないから」と覚えてしまっていて、so that S will not V との区別ができないことがよ

くあります。「目的」では大切な表現ですから、掲載することに決めました。

「Sのため～はVできる」S enable ~ to (V)

(新版：p.32 7 動詞の語法)

生徒の答案では「原因—結果」を無視するミスが目立ちます。「携帯は便利だ。どこでも電話出来る」の後半を、You can call wherever you are. としてしまうわけです。これは、原因結果を補って They enable you to call wherever you are. としなければならぬ、ということをお教えたくて追加しました。

「思ったより、意外と～」比較級 than S expect

(新版：p.60 14 比較の応用)

過去の入試問題を分析すると「思ったより、案外、意外と」の類いは頻出です。そこで、掲載することになりました。

「これは～にも当てはまる」This is (also) the case with ~.

(新版：p.68 16 重要表現(1))

和文英訳はもとより、自由英作文でもよく使う表現なので追加しました。これ以外でも be true of ~ や、apply to ~ などもありますが、最も使いやすい、頻度の高い表現としてこれを選びました。

◇結び

以上述べてきた問題に変わるものは次のようにして選びました。まずここ数年の入試問題でよいと思ったものを生徒たちに解いてもらい、その生徒の実際の解答を精査して、生徒たちの学力向上に資すると思われるものを選びました。

これからの入試に求められるものは、「翻訳者のまねごと」ではなく、「確実な英語で、言いたいことを50%でも伝えられる力」を身につけることだと確信しています。「まともな英会話」の基礎を身につけるためにも、良質な和文英訳の適切な指導の一助として、新しくなった『必携英作文』が皆様のお役に立てることを切に祈っております。

(駿台予備学校講師、学研特任講師、洛南高等学校講師、竹岡塾主宰)